

4. 千葉県 柏市立図書館

地域・市民と「協働」した課題解決型地域図書館づくり

(平成 20 年度地域の図書館サービス充実支援事業)

(1) 事業の趣旨・概要

平成 24 年に新中央図書館開館を控え、大幅な組織体制の見直しの中、図書館本館機能の強化が課題となっている。その強化策の一環として、市の行政課題の 1 つである高齢・障がい者対策や地域における市民（ボランティア）協働事業をはじめ、地域・町会単位の郷土史づくりを柱とした地域アーカイブ事業、危機管理対策事業及び市内大学図書館連携事業等のモデル事業を実施し、マニュアル等を作成することを通して、それらの事業を 40 万市民全体に波及させ、市民ボランティアを核とする地域資源を活用した地域図書館サービス（地域課題解決型図書館サービス）の全国的モデル事業とすることを意図した。

※委託先・図書館の概要（平成 20 年 3 月末現在）

委託先	自治体・機関名	柏市立図書館
	所在地	〒277-0005 千葉県柏市柏 5 丁目 8-12
	連絡先	TEL 04-7164-5346
		FAX 04-7164-5905
URL http://tosho.city.kashiwa.lg.jp/		
図書館の概要（平成 20 年 3 月末現在）	職員数	23 人（うち再任用職員 2 人／司書 13 人） ※本館・分館の合計
	開館時間	本館：水～金 9:30～19:00 火・土・日・祝 9:30～17:00 分館：火～日・祝 10:00～17:00 ※沼南・高柳・こども図書館のみ 火～日・祝 9:30～17:00
	年間開館日数	本館：302 日 分館：302～305 日 ※館によって異なる
	蔵書数	894,571 冊 ※本館・分館の合計
	利用登録者数	91,457 人 ※本館・分館の合計
	年間利用者数	（貸出利用者） 604,102 人 ※本館・分館の合計
	年間貸出冊数	2,285,459 冊 ※本館・分館の合計
	運営状況	平成 24 年に新中央図書館の開館を控え、40 万都市に相応しい図書館の本館機能の強化のため、各分館に 1 名ずつ配置されていた職員（司書）が平成 19 年度に本館に引き上げられた。その際、本館に新たな事業に取り組むための企画担当 5 名が配置された。 本館職員は主に事業の企画・運営、選書、レファレンス、本館のカウンター業務を行い、分館については、臨時職員がカウンター業務を行っている。平成 20 年 8 月に開館したこども図書館は、本館から職員 2 名が異動し、業務にあたっている。

※地域の現況・特色

<p>柏市は千葉県の北西部に位置し、平成 17 年 3 月に沼南町と合併、新しい柏市となった。現在は中核市、業務核都市に指定されている。1970 年前後に東京のベッドタウンとして人口が急増し、1980 年～1990 年代にかけて東葛地域の商業の中心都市となった。つくばエクスプレスが通っている市北部の柏の葉地域は、大学、研究所、産学連携施設などが集積する文教地区としての顔をもつ。</p> <p>図書館は、柏駅近くにある本館の他に 16 の分館があり、平成 20 年 8 月には、就学前の乳幼児と保護者を対象とした「こども図書館」が新たにオープンした。また、平成 24 年に開館を目指す新中央図書館計画が策定されている。</p> <p>面積：114.9km² 人口：39 万 3 千人</p>

(2) 事業の実施体制

事業実施にあたっては、「柏市図書館サービス充実支援実行委員会」を組織した。

<委員構成>

大学教授（図書館学）、母親読書センター委員、小学校校長、子ども文化連絡会委員、元市ボランティアコーディネータ、福祉 NPO 職員、前地区主任児童委員、健康づくり推進員、ファミリーサポートセンター職員、前ブックスタート運営委員会会長、学校図書館指導員、図書館協議会委員（元出版編集者）、町会歴史委員会委員、大学図書館司書、市教育総務課主査、市文化課副主幹（郷土史担当）、市立図書館館長、市立図書館専門監・主幹・副主幹（事務局） 計 20 名

<主な役割>

事業全般に関する検討、各事業への運営協力

※委員選出にあたっては、地域で実際に読書推進・ボランティア活動をしている人、本事業を各地区で実践的に活かせる人を中心に人選した。

(3) 事業体系

実施した事業は下記の5つである。

①高齢者・障がい者等への図書宅配ボランティア養成計画	i 地域図書宅配ボランティアグループの養成と地域図書宅配の実施
②地域課題解決型支援事業計画	i 緩和ケア・がん対策関係 ア. 課題解決型コーナーの設置 イ. 「緩和ケア」企画展の開催 ウ. 講座の開催 エ. 県図書館ネットワーク研修会時の事例報告 ii 子育て支援・こども図書館関係 ア. こども図書館開館記念イベントの開催 イ. 毎日お話し会の開催 iii 行政課題解決支援 iv 図書館まつり・リサイクル本市の開催
③地域モデルアーカイブ事業計画	i 歴史写真・資料集「今谷上町のいま・むかし～写真・聞き書きで伝える～」の作成 ii 「今谷上町のいま・むかし～写真・聞き書きで伝える～」の開催 iii 「光ヶ丘団地と今谷上町のいま・むかし」の開催
④本館・分館における危機管理マニュアル作成計画	i 図書館危機管理研修・意見交換会の開催 ii 図書館職員向け危機管理研修会の開催 iii 図書館危機管理マニュアルの作成
⑤市内大学図書館相互連携事業計画	i 市立図書館・市内4大学図書館の意見交換会の開催 ii 市立図書館・市内4大学図書館「市民開放」の案内の作成 iii 市内4大学図書館・市立図書館合同企画展・関連講演会の開催

(4) 当事業に取り組んだ背景・経緯

公共図書館が担う役割は多岐にわたり、単なる本の貸出・返却という基本的機能にとどまることなく、「地域の情報拠点」として、地域の課題解決や調査研究にも応えるべく、より多様化、高度化、迅速化が求められ、図書館事業のさらなる充実のための「改革」が求められている。柏市では、19年度末に「新中央図書館整備基本計画」が策定され、組織体制の大幅な見直しの中、図書館本館機能の強化が急務の課題となっていた。そのような状況の中で、本館機能の強化を図るため、柏市が今までやってこなかったこと、さらに文部科学省による「これからの図書館像―実践事例集―」を参考に、市立図書館としてやるべきことを洗い出した。それまで市民と協働した事業にあまり取り組んでこなかったことを踏まえ、また、市民の課題とともに行政課題の解決に寄与することも重要だと考え、本事業の中で「地域・市民と“協働した”課題解決型地域図書館づくりを」を目指した。

(5) 各事業の内容と現在までの取り組み状況

①高齢者・障がい者等への図書宅配ボランティア養成計画

モデル地区・町会等を選定し、「地域図書宅配ボランティアグループ」を養成し、地域内で孤立しがちな独居高齢者・障がい者等に図書館の本を宅配し、そのことにより市の行政課題である地域における福祉・防災見守りネットワークの構築に寄与することを目指した。

i 地域図書宅配ボランティアグループの養成と地域図書宅配の実施

主な対象：地域内で孤立しがちな独居高齢者・障がい者

モデル地区：富勢地区（理由：分館が2館あり、配達しやすい環境のため）

目的：個人情報を守りながら、本を届けることにより、地域の間人関係をつくり、見守り活動につながることを意図した。

<作業手順>

○モデル想定地区（富勢地区）で事業説明（参加者約30名）

○庁内関係部署（障害者福祉課、広報広聴課、防災安全課、社会福祉協議会）への聞き取り調査

○事業計画の地元説明（参加者約30名）

○地区役員との事業調整会議（参加者6名）

○先進市（調布市・町田市）図書館視察（参加者6名）

⇒調布市ではボランティア同士の意見交換会を年4回開催し、町田市では事業に着手してから軌道に乗るまで約5年かかったことがわかった。

○ボランティア説明会開催（参加者10名⇒登録者6名）

※無償ボランティアのため、徒歩または自転車で宅配できる人が登録

○地区内宅配利用者調査（特養ホームなど2施設訪問）

⇒利用者1名、利用団体1施設から宅配希望依頼打診あり

○利用者宅へのボランティア・職員との面接訪問（1個人・1施設）

○宅配開始⇒個人宅へボランティア2名で宅配

【取り組みのヒント】

- 地区での配食サービスが見守り活動にもなっているの、それと同様に図書館の宅配の様子を高齢者・障がい者等に対する地域の防災・見守りネットワークに活かせないかと、地区社会福祉協議会等との連携実施を考えたが、個人情報問題や関連障がい者団体・関連部署との調整（モデル地区での先行実施か全市で一斉実施か等）に時間を要し、当初の想定よりも実施が困難であった。
- 調査の結果、利用対象者が少なかった。
⇒高齢者は視力等の問題であまり読書をしない人が多く、障がい者で目の不自由な人は福祉サービスの無料配送を利用したり、家族が図書館等からの貸出・返却を代行しているケースが多い。
- 他市先進図書館でも本格実施までには時間を要しており、利用者の個人情報を配慮し、モデル地区において図書館主導でボランティアを養成し、利用者や地域との信頼関係を築きながら時間をかけて展開していき、その結果を踏まえて市内全地区に広げていく方法がよいことがわかった。
⇒次年度は全市で実施する予定であるが、最終的には、図書の宅配が地区社会福祉協議会のメニューの中に組み込まれ、各地区で自主的に運営する方向が望まれる。



②地域課題解決型支援事業計画

各行政課題を中心とした解決支援講座の企画や資料リスト等の作成を行い、図書館での企画（テーマ）展示との連携を図った。行政内部に対しては、適時庁内LANの掲示板でPRした。

i 緩和ケア・がん対策関係

柏市は団塊の世代を中心に、全国的に見ても急速な高齢化の進行が見込まれ、がん対策が行政課題の1つとなっていた。また中核市移行に伴い、県所管の保健衛生事務が市に移管される中、市保健所から厚生労働科学研究「緩和ケア普及のための地域プロジェクト」の地元相談窓口である国立がんセンター東病院と連携し、プロジェクトの一環である「緩和ケアを知る100冊」コーナーの設置依頼を受け、図書館としても「協働」して取り組むことになった。

※同プロジェクトは隣接の我孫子市・流山市も指定されているため、同市の図書館にも「緩和ケアを知る100冊」は蔵書されているが、柏市の専用コーナー設置は公共図書館としては全国初の事例であった。

ア. 課題解決型コーナーの設置（本館内に専用コーナーを設置）

○緩和ケアを知る100冊コーナー開設

本館入口付近に100冊に選書された図書を配架し、図書リスト、関係資料を同時に配布した。

○シニアライフ応援コーナー開設

本館入口付近に設置し、毎月テーマを変えて関係図書を展示した。

<取り上げたテーマ>

「パソコン事始め!」「アルツハイマーを知る」「街を、山を歩く」「がん闘病記」「思い出のオリンピック」「女性の闘病記」「秋の夜長は昔ばなしを紐解いて…」
「男性の闘病記」「介護の記録」「巨人・大鵬・玉子焼き」「腰痛」「もの忘れ」



シニアライフ応援コーナー



緩和ケアを知る100冊コーナー

イ. 「緩和ケア」企画展の開催

緩和ケアに関連する図書を展示した。

期間：7月1日～7月13日 本館ロビー

ウ. 講座の開催

○「緩和ケアを知る 100冊」を学ぼう講座の開催

会場：中央公民館（参加者約150名）

講師：国立がんセンター東病院医師、市立図書館司書（成人、児童担当各1名）

【工夫のポイント】

保健所総務企画課職員による「がん患者を支える地域づくり」の説明と司書による「緩和ケアを知る 100冊」の中からの本の紹介の時間を設定し、行政による支援のスタンスを明確にした。

○「緩和ケアを学ぼう」講座の開催

会場：新富近隣センター（図書館分館併設、参加者約70名）

南部近隣センター（図書館分館併設、参加者約80名）

【工夫のポイント】

地区会場内で100冊関連図書の移動企画展示、図書リストの配布を行い、講演会参加者等、新しい利用者の開拓につながった。

○岸本葉子文芸講演会「心の痛みをやわらげる」の開催

会場：アミュゼ柏（参加者約250名）

講師：エッセイスト（がん手術体験・緩和ケアを著作として発表）

エ. 県図書館ネットワーク研修会時の事例報告

会場：県立西部図書館（参加者約30名）

内容：柏市における課題解決支援事業と「緩和ケアを知る 100冊コーナー」開設経緯を説明

ii 子育て支援・子ども図書館関係

ア. 子ども図書館開館記念イベントの開催

平成20年8月8日に沼南庁舎内に開館。記念行事として、概ね8月～9月にかけて、ボランティアによる人形劇、おはなし会、コンサート、わらべうた等、各種イベントを実施した。

※保健所と連携し、館内のドリンクコーナーに「母子保健情報コーナー」を設置、保健師がレイアウト・掲示情報を担当した。また、児童育成課・保育課等と連携し、入口の大型チラシコーナーでは各種子育て支援情報を提供している。

イ. 毎日お話し会の開催

登録ボランティア約30名により、毎日、子ども図書館においてお話し会を実施している。また、土日にはイベントボランティアがパネルシアター、腹話術、工作等の子ども向けイベントを実施している。

※開館にあたって、広報等を通じ、市内を中心に活動実績のある各種イベントボランティア団体を公募し、行事ボランティアとして登録。週末を中心に各種子ども向けイベントを開催している。

【工夫のポイント】

日頃から、職員がボランティアセンターや各種ボランティア団体と連携、無償ボランティアを発掘し、ボランティア専用室での事前打合せも行い、交流会の開催等、ボランティア支援に努めた。

iii 行政課題解決支援

主に保健福祉・市民活動部門等の行政関係部署の事業と連携し、その事業のPR・普及を支援するための企画展示、出張展示、図書リストの作成支援等を行った。

内容：本館企画展示（28回）、各種講演会出張展示（10回）、図書リスト作成支援（10件）

<主な内容と支援・連携先>

- 男女共同参画週間（男女共同参画室）
 - 市民活動おすすめの一冊（市民活動推進課）
 - DVを知る（男女共同参画室）
 - うつ病対策（保健所保健予防課）
 - 行政各種シンポジウム支援「図書館でも学んでみませんか！」（関係各課）
 - こどもの虐待防止（児童育成課）
 - 認知症にやさしいまちづくり（地域包括支援センター）
 - 景観まちづくりシンポジウム（都市計画課）
 - 介護予防フォーラム（高齢者支援課）
 - 雇用・就労支援（商工課）
 - 平和展「平和の大切さを伝えたい（原爆資料集展示）」（国際交流室）
- ※他にシニアライフ応援コーナーにて適時企画展示を実施した。



認知症にやさしいまちづくり会場での出張展示

【工夫のポイント】

会場に設置する図書及び関連図書リストは、関係各課の職員と連携をとって選定し、作成した。日頃から庁内掲示板で図書館の支援サービスをPRするとともに、職員間のネットワークにより情報収集をしていた。

iv 図書館まつり・リサイクル本市の開催

期間：平成20年11月2日～3日（総来館者数3912名）

内容：一般市民向け図書館のPRを目的とした「図書館まつり・リサイクル本市」の開催

- リサイクル本市（19年度に続き第2回目）
成人本5861冊、児童本4090冊 計9951冊を無料頒布
- おはなし会（参加者計370名）
- その他
消防車試乗会、ミニ機関車運転体験会、工作教室、市内読書会活動発表、スペイン・中国語によるおはなし会、布絵本・わらべうたの会の発表、「私のおすすめの一冊」紹介、画家大野隆司氏・長縄えい子氏合同展覧会

③地域モデルアーカイブ事業計画

モデル地区・町会を選定し、地域ボランティアを中心に変貌する地域の歴史資料・写真等を収集するとともに、地域住民から聞き取りを実施した。それらをもとに歴史写真・資料集を作成し、また、展示等を分館等で実施した。

※今後整備予定の新中央図書館における中核事業の1つである地域アーカイブ事業として、先駆的役割を担うことを意図した。

i 歴史写真・資料集「今谷上町のいま・むかし～写真・聞き書きで伝える～」の作成

方法：今谷上町地区をモデル地区とし、町会内に「歴史委員会」を設置して取り組んだ。

内容：写真で知る、聞き書きで知る、歩いて知る、資料で知る、年表、作成マニュアル等

様式：A4判92ページ、400部発行

配布先：図書館本館・分館、地域ボランティア、市内小中学校、県立・近隣市図書館・博物館 他

<今谷上町地区を選んだ理由>

15年前に町会の子ども会が主体となって、児童と父親を巻き込んで、地区住民に昔の地域の様子を聞き取り調査した実績があった(「聞き書き今谷上町のむかし」「小さかったお父さん」)。それをベースに、町会回覧板を通し「古い写真」の提供を呼びかけ、さらに新たな資料を収集して歴史資料づくりを行うことを計画した。

<作業手順>

○町会長に今谷上町地区をモデル地区指定することを依頼。

○歴史委員会の開催

平成20年6月22日に第1回の委員会を開催し、地域ボランティアに事業説明を行う⇒以後、隔月で開催。

○町会内の回覧板により昔の写真・資料の提供を呼びかける⇒町会住民より多くの写真が提供される。

○地域の旧家3名の女性からの昔の生活についての聞き取りを実施。(地域ボランティア5名参加)

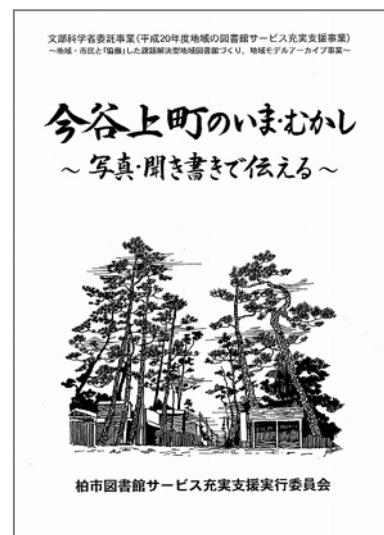
○「商都“柏”の歴史をふりかえってみませんか」において、歴史委員会委員代表による中間報告を実施。

会場：アミュゼ柏 参加者：市民約90名

○歴史委員会により構成内容を決定、編集作業

○文化課学芸員による内容の確認・検証

○歴史写真・資料集「今谷上町のいま・むかし～写真・聞き書きで伝える～」発行



※当初、他の地区でも取り組めるよう、歴史写真・資料集の作成マニュアルを別冊でつくる計画だったが、「今谷上町のいま・むかし～写真・聞き書きで伝える～」の中に「地域ボランティアによる“歴史資料づくり”作成するにあたってのワンポイントアドバイス」とあわせて作成した。

【工夫のポイント】

○町会内に「歴史委員会」を設置し、「聞き書き」「収集写真」を主体として、世代を越えた地域住民(ボランティア)と「協働」で作成した。

○歴史委員会委員(モデル地区のボランティア)が教育委員会文化課市史編さん担当から事業の進め方について専門的な研修を受けた⇒資料の収集の仕方、まとめ方についての共通認識ができた。

○住民にとって読みやすく、親しみやすい内容とし、また児童・生徒の郷土学習に役立つ資料とするため、資料より写真中心の構成内容とした。

○資料の中で「柏市立図書館所蔵の歴史資料の紹介」のページを設け、図書リストを掲載し、図書館の機能についてPRした。

ii 「今谷上町のいま・むかし～写真・聞き書きで伝える～」の開催

日時：平成21年2月7日

会場：今谷上町ふるさとセンター

内容：歴史委員会委員による報告会と写真・資料展示

参加者：町会関係者 約50名



「光ヶ丘団地と今谷上町のいま・むかし」写真展示

iii 「光ヶ丘団地と今谷上町のいま・むかし」の開催

日時：平成21年2月21日

会場：光ヶ丘近隣センター

内容：市史編さん委員による講演、歴史委員会委員による報告会、写真・資料展示

参加者：市民 約80名

④本館・分館における危機管理マニュアル作成計画

図書館利用者の安全確保と快適な読書環境の提供に寄与することを目的に、地域分館を運営する臨時職員と本館職員を対象に、迷惑行為、災害・事故防止等の課題研修会や意見交換会（グループワーク）を行い、また、危機管理マニュアルを作成した。

i 図書館危機管理研修・意見交換会の開催

対象：分館職員 118 名（全職員を 4 回に分けて実施）

日時：1 月 28 日（分館職員 31 名参加）、1 月 29 日（分館職員 28 名参加）、2 月 10 日（分館職員 32 名参加）、2 月 12 日（分館職員 27 名参加） 各回 1 時間 30 分程度

テーマ：「どうやって利用者による迷惑行為に対処できるか？」

講師：本館職員

方法：各回約 6 人ずつの 5 グループに分け、グループワークを実施。

⇒意見交換を行うことにより、職員間で共通課題に対する対処方法を検討しあうことができ、各分館間の課題認識の共有、相互理解、職員交流の場となった。



グループワークの様子

ii 図書館職員向け危機管理研修会の開催

日時：平成 21 年 3 月 3 日 16:00～17:00／18:00～20:00

対象：本館職員 21 名、分館職員 30 名 計 51 名参加

講師：前半—保健所保健師・精神保健福祉士

後半—（株）トーハン・コンサルティング コーディネーター

内容：前半—精神疾患を知る 後半—接遇、苦情対応について

⇒この研修内容が独自の実践的マニュアル作成に活かされ、苦情処理方法の中で利用者への「説明責任」を付記することになった。

【工夫のポイント】

図書館内部の研修であったため広報は実施しなかったが、グループワークの内容、危機管理マニュアルについては、全職員へインターネット掲示板等を通じ配信し、周知徹底を図った。

iii 図書館危機管理マニュアルの作成

市人事課職員用マニュアルや職員向け危機管理研修会の内容などを参考にし、本館職員が作成した。

配布：職員全員に印刷したマニュアルを配布した他、庁内 LAN 上に掲示し、臨時職員も含め、いつでも印刷・閲覧できるようにした。



目次	
1. 接遇の基本	
1) 第一印象～身だしなみ・姿勢・空間・表情	・・・ 1 頁
2) 話す	・・・ 2
3) 聞く・聴く	・・・ 4
4) カウンター対応	・・・ 6
5) 電話での対応	・・・ 7
6) 市民のプライバシーの保護	・・・ 8
2. 苦情・要望対応	
1) 職員・施設について	・・・ 9
2) 他の利用者について	・・・ 10
3) プライバシーに関する苦情・要望	・・・ 12
4) 未実施、未対応のサービス等に関して	・・・ 13
5) 業務に関して	・・・ 18
3. 危機管理マニュアル	
1) 火災	・・・ 22
2) 地震	・・・ 23
3) パソコンのトラブル	・・・ 24
4) 利用者の服装なふるまい等 ～対職員・利用者同士、奇矯なふるまいや乱暴行為～	・・・ 25
5) 入館者の怪我・病気	・・・ 26
4. その他	
1) 「勤務の心得」	・・・ 27
2) 仕事の基本は「健康」	・・・ 27
3) 緊急連絡先	・・・ 27

⑤市内大学図書館相互連携事業計画

市内4大学図書館と連携を図り、意見交換会を開催し、大学市民開放のPRを目的とした案内の作成及び合同企画事業を実施した。

対象：柏市立図書館及び市内4大学（日本橋学館大学・二松学舎大学・麗澤大学・東京大学各図書館）

i 市立図書館・市内4大学図書館の意見交換会の開催

第1回：平成20年7月18日

内容：市民開放のPRを目的とした合同企画展（各大学図書館等の秘蔵資料公開）、関連講演会の開催の決定。

第2回：平成21年4月下旬予定(当初3月下旬に予定していたが、都合により延期になった)

内容：20年度の事業報告、次年度合同企画展の計画についての意見交換

ii 市立図書館・市内4大学図書館「市民開放」の案内の作成

市内4大学の市民開放紹介リーフレットを作成・印刷し、市立図書館及び各大学へ配布し、PRに努めた。

市立図書館・市内4大学図書館「市民開放」の案内リーフレット

柏市立図書館と市内4大学図書館「市民開放」のご案内

柏市立図書館と市内4大学図書館が4カ所あり、各大学で登録した各秘蔵資料（書籍・雑誌・CD等）を公開することができ、特に、日中韓歴史文化事業として、柏市立図書館と連携して、市民開放を行っています。

柏市立図書館（本館・分館）

所蔵書：約100万冊
 開館時間：平日 10:00～18:00
 休館日：日曜・祭日・年末年始
 入館料：無料
 貸出料：無料
 予約料：無料

日本橋学館大学図書館

所蔵書：約100万冊
 開館時間：平日 10:00～18:00
 休館日：日曜・祭日・年末年始
 入館料：無料
 貸出料：無料
 予約料：無料

二松学舎大学附属図書館（柏）

所蔵書：約100万冊
 開館時間：平日 10:00～18:00
 休館日：日曜・祭日・年末年始
 入館料：無料
 貸出料：無料
 予約料：無料

麗澤大学図書館

所蔵書：約100万冊
 開館時間：平日 10:00～18:00
 休館日：日曜・祭日・年末年始
 入館料：無料
 貸出料：無料
 予約料：無料

東京大学柏図書館

所蔵書：約100万冊
 開館時間：平日 10:00～18:00
 休館日：日曜・祭日・年末年始
 入館料：無料
 貸出料：無料
 予約料：無料

iii 市内4大学図書館・市立図書館合同企画展・関連講演会の開催

各大学図書館等の秘蔵資料を公開し、関連講演会を実施した。

期間：平成20年10月20日～11月8日

ア. 資料展示

- 東京大学：平賀譲文書展
- 麗澤大学：19世紀のイギリスと日本における出版文化「ケルムスコットプレスと江戸後期絵入物語本」
- 二松学舎大学：横溝正史旧蔵資料展
- 日本橋学館大学：イギリス18世紀古書「ベル版演劇全集」～ちょっと変わったシェイクスピア～の世界
- 柏市立図書館：柏の“まち”を知る歴史資料・写真展～戦後の柏写真展等



日本橋学館大学図書館での展示

イ. 関連講演会

- 二松学舎大学：「父・横溝正史を語る」講演会（10月25日開催、参加者約70名）
 講師：横溝亮一氏（横溝正史長男）
- 日本橋学館大学：イギリス18世紀古書「ベル版演劇全集」～ちょっと変わったシェイクスピア～の世界（10月25日開催、参加者約20名参加）
 講師：日本橋学館大学美学芸術専攻准教授
- 柏市立図書館：柏市立図書館：「商都“柏”の歴史をふりかえってみませんか～“聞き伝え”にぎわいのまち柏ができるまで」（10月31日開催、参加者約90名）
 講師：柏ロータリークラブ名誉顧問、かしわインフォメーションセンター事務局長、今谷上町歴史委員会委員

(6) 事業の成果・効果と事業実施後の取り組み

①事業の成果・効果

事業の主な成果と効果は次のとおりである。

i モデル事業により、地域ボランティアとの協働による“地域課題解決”事業の実績をつくることのできた ○こども図書館におけるボランティアによる毎日おはなし会の開催、週末を中心とした行事ボランティアによるイベントの開催

イベント開催総数：217 件、イベント参加者総数：6563 名、延来館者数：48261 名
ボランティア参加者総数：597 名 (平成 20 年 8 月～平成 21 年 2 月末現在)

※平成 19 年度に取り組んだ読み聞かせボランティア育成事業の成果である。

平成 20 年度登録ボランティア数：ブックスタート約 100 名、分館おはなし会約 110 名、こども図書館約 30 名、計約 240 名

○地域ボランティアとの協働による歴史資料づくり

一般地域住民（ボランティア）による地域の人を対象とした聞き取り、町会内回覧板による写真収集等、地域住民と“協働”した取り組みで郷土資料アーカイブ事業の実績をつくれた。

○図書館の宅配ボランティア活動

モデル地区で宅配ボランティアの登録が 8 名あり、個人宅への図書館の宅配を試行的に開始できた。

ii モデル事業が各種メディアで取り上げられ、図書館の取り組み・機能・役割をPRすることができた

<緩和ケア関係>

○新聞：読売新聞、毎日新聞、朝日新聞、東京新聞、千葉日報

○市広報：広報かしわ

<子育て支援・こども図書館関係>

○新聞：朝日新聞、読売新聞、千葉日報、地元ミニコミ紙「手賀の杜通信」、地域こども情報紙「キッズジャーナル」、サンケイリビングかしわ、ぐるっと千葉、共同通信取材（以後山形新聞等全国紙掲載）

○ラジオ・テレビ：千葉テレビ「NEWS」ローカルニュース、BAY FM ラジオ公開番組「かしわイベント紹介」、JCOM 地元 CATV

○市広報：広報かしわ、市議会だより

○その他：ライブラリー・アド・サービス「こどもの本を選ぶ」取材

※その他、市内各種団体や市外議員等、多数の視察があった。

<歴史写真・資料集「今谷上町のいま・むかし」>

○新聞：毎日新聞

○市広報：広報かしわ

<柏市と 4 大学合同企画展>

○新聞：毎日新聞、東京新聞、読売新聞、朝日新聞

○市広報：広報かしわ

※各大学単独の事業では、従来メディアでは取り上げられなかったが、公立図書館が絡み、4 大学が合同で実施することにより注目された。一部大学では全国紙に取り上げられたことにより、本部より本企画事業が認められ、予算が大幅に増額した。

iii 行政職員に対し、図書館のもつ情報発信機能及び行政課題解決機能を認知させることができた
本館内にコーナーを設置し、各関連部署の講演会時に企画展示を実施し、関連資料リストを作成したことにより、図書館のもつ行政課題解決機能を図書館以外の行政職員にPRすることができた。

内容：本館企画展示（28回）、各種講演会出張展示（10回）、図書リスト作成支援（10件）

iv 地域の関連機関のコーディネーター役としての図書館の機能を実証できた

それまで横の連携がなかった市内大学4校に対し、市立図書館が各大学の市民開放に向けた支援・調整役としての役割を果たすことができた。次年度以降も市立図書館がコーディネーターとなり、継続的な意見交換会、合同企画展を開催予定である。また、図書館は様々な分野の資料を所蔵していることで、いろいろな活動を横につないでいける要素をもっているため、図書宅配事業、地域アーカイブ事業などで地域の人同士や地域機関とをつなぐコーディネーター役も果たせると考えられる。

【成功のキーポイント】

★本館職員が地域や行政内部に情報ネットワークをもっていた。

公共図書館の職員には地域や各機関の支援・調整役としての役割がある。地域ボランティアや地域のキーマン、その他の地域情報を把握していることで、横のネットワークをつくることができ、そのネットワークができると様々な物事が自然と動くことを本委託事業での取り組みで実証できた。図書館司書と事務職員が互いの専門性や仕事上の経験を活かすことで、地域のコーディネーターとしての役割を担うことができる。

※本委託事業の事務局担当職員が以前に地域福祉課、ボランティアセンターでの勤務経験があり、そのことによりボランティア情報や地域情報等を効率よく収集できた。

②事業実施後の取り組み

※平成20年度委託事業のため、省略。

（7）課題と今後の展望

①課題

主な課題としては次のことが挙げられる。

i 地域の課題・ニーズに応じた支援等の充実

退職したシニア世代の増加が予測され、シニア世代を中心とした生涯学習（いきがい）活動支援、NPO・ボランティア活動支援、認知症・生活習慣病等介護予防支援、緩和ケア・がん対策等を中心とした医療情報提供支援等が大きな地域ニーズであり、図書館としてその部門の支援を充実させていく必要がある。

※「緩和ケア」講座を2分館で開催したが、分館でのコーナーは未設置である

ii 図書館の「個人の自立支援」という役割に対する図書館職員間での共通認識の醸成

団塊の世代を中心に高齢化が進行する一方で少子化も進む柏市においては、市民との“協働”のもと、乳幼児から高齢者・障がい者まで全市民を対象に“読書環境”を整備していくことを通じた「個人の自立支援」が図書館の“使命”として重要であることを、図書館職員間で共通認識をつくる必要がある。

②今後の展望

20年度に本委託事業で実施した事業については、今後次のように取り組んでいく予定である。

i 高齢者・障がい者等への図書宅配ボランティア養成計画について

引続きモデル地区で事業を進め、その成果を踏まえて全地区（20地区）での展開を図る予定である。現時点では、図書館の宅配ボランティアとして個人情報に配慮した事業展開から始めているが、来年

度以降、今回のモデル地区の経験を踏まえ、時間をかけながら福祉・防災見守りネットワークの構築につながるよう努めたい。21年度はボランティア対象の傷害保険料のみ当初予算で計上した。

ii 地域課題解決型支援事業計画について

図書館ホームページや庁内掲示板を通してPRを続け、保健福祉・市民活動部門だけでなく、庁内全部署へ拡大していきたい。また、講演会・シンポジウム開催時の企画展示・参考資料リスト作成支援にとどまらず、図書館で対応するレファレンス内容も同様に庁内職員・議員向けにPRし、行政課題解決支援型図書館を前面に出した事業展開、PRを目指したい。

iii 地域モデルアーカイブ事業計画について

7月開催予定の市内自治会長会議において今回の活動をマニュアルとともに発表することにより、市内全地区・全町会での歴史資料づくりに拡げていき、市内16全分館での郷土資料コーナーの充実を図りたい。21年度は、市民向けに図書館主催で地域歴史資料づくり講座（広報広聴課職員、文化課職員、地域ボランティア、図書館司書が講師予定）を開催し、地域での支援ボランティアを養成していく予定である。また、毎年実施している文芸講演会では、歴史・郷土史関係の講師を予定している。

iv 本館・分館における危機管理マニュアル作成計画について

危機管理マニュアルの改正を適時行い、職員意見交換会も継続して開催予定である。また21年度以降、毎月1回の各分館のクレーム検討会議の開催も予定している。そのことにより、利用者からの苦情、トラブルを軽減できることが期待される。

v 市内大学図書館相互連携事業計画について

21年度も市立図書館・市内4大学図書館による意見交換会及び合同企画展を開催予定である。現時点では、各大学の柏市での創立経緯の歴史資料展を予定している。一部大学図書館とは、市民開放PRを目的とした市民向けの健康ウォーキングマップを保健所と共同制作予定である。また、市内4大学図書館の各種イベントや市民開放情報を、随時、市立図書館から市民へ情報提供していく予定である。